

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズすてっぷとうひ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年1月6日	～	令和8年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年1月6日	～	令和8年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しみながら経験できる活動プログラム	言語聴覚士や保育士などの専門職が連携し、遊びや制作、運動などを通して、子どもが楽しみながら経験を積める活動を工夫している。発達段階や特性に応じた療育的視点を取り入れている。	専門職の知見をさらに活かし、個々の課題や成長段階に合わせて活動内容を計画的に見直し、達成感や意欲につながる支援を充実させていく。
2	子どもが安心して過ごせる環境	子どもの気持ちを尊重した声かけを心がけ、安心して過ごせる雰囲気づくりを行っている。落ち着いて過ごせるスペースを確保し、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。	定期的に支援環境や関わり方を振り返り、より安心して自己表現ができる環境づくりを進めていく。
3	職員間のチームワーク	毎日の打ち合わせや記録共有を通して情報共有を行い、職員間で共通理解を持った一貫した支援を心がけている。お互いの意見を尊重し、協力しながら支援を行っている。	定期的な事例検討や研修参加を通じて、支援の質の統一と職員のスキル向上を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士やきょうだい同士が交流する機会が十分に確保できていない	感染症拡大等の影響により、保護者会や交流行事の実施が難しい状況があった。	実施時期や方法を工夫し、小規模・短時間での交流機会を検討する。
2	地域との交流や地域に開かれた取り組みについて、実績が十分とは言えない	地域行事等への参加機会が限られている。	地域資源や関係機関とのつながりを整理し、可能な範囲から交流の機会を検討する。
3	会議や振り返りの内容整理に時間がかかる	会議では多くの意見が出る一方で、要点整理や全体への共有に時間を要している。	会議では多くの意見が出る一方で、要点整理や全体への共有に時間を要している。